これまでの議論の整理と今後の取組みについて

重点的検討課題のソリューションモデル(素案) 重点的検討課題1 (=解決したい社会課題)

実証実験として実施主体を公募

実施主体が**自走**できるようプロジェクトを支援

重点的検討課題2 (=解決したい社会課題)

望む未来

生業の再興

地域内に持続可能な

望む未来

興している

田園ならではのサービ

ス、体験、物が高く評

望む未来

価されている

アントレプレナー

シップを持つ人達

がいろんな事業を

稼げるスキームがある

求心力のある地域の創出

○○地域の田園 ソリューションモデル

望む未来 美しい田園風景がある

望む未来

望む未来

課題の転換

空き家を魅力ある 建物として使う

今の課題

外の人と交流の

きっかけがない

放置された空き家 の増加・景観の阻害

今の課題

地域イベントの

参加者が継続的

な関係人口にな

らない

課題の転換 今の課題

地域の玄関口 人の出入り となる拠点を が活発

つくる

課題の転換

コミュニティ形成を

主眼に置いたイベン

卜設計

多様性のあるコミュニティ が形成されている

プロジェクトの実行自体が OJTでの人材育成・

チームビルディングにつながる

今の課題 地域内に稼げる

仕事がない

今の課題

課題の転換

課題の転換

スモールビジネス

支援を通してアン

トレプレナーシッ

プを根付かせる

課題の転換

無価値と思われて

いた資源に対して

ラベルの貼り替え

もともと地域にあ

るもの×付加価値

→ 新しい仕事

担い手が いない

事業の

今の課題

自然以外に 価値のある ものがない

◆ ソリューションの 具体的な実行内容

ソリューション

<触媒>

「これをやれば望む未来につ ながるよ というもの

●サポート

県・市町村

▶「03ボトムアップ型まちづくり」

補助金、情報提供、仲間集めの協力、ビジョンづくり

「03ボトムアップ型まちづくり」のロードマップ(案)

実証実験を通じて「地域課題」のラベルを貼り替え、「望む未来」のあるモデル地域をつくる

事業 ▶ 地域づくりのステップイメージ

実証実験の成果を活用して、自立した事業の継続を目指す。

※様々な支援の活用も視野に入れて、自走を目指す。

初年度

2年目以降

3年目以降

実証実験として実施主体を公募

実施主体が**自走**できるプロジェクトを選定(→モデル事業・地域として支援・育成)

モデル事業・地域を育成し、 横断的な広がりを目指す

実証実験プロジェクト モデル実施イメージ



田園地域の魅力づくりビジョン(たたき台)

描く未来

|10年後には、

01・02・03が相互に作用することにより「ソリューションX」という形になって 田園地域の魅力がUPしている 01

田園の魅力発信&求心力づくり (魅力再発見プロジェクト)

田園地域の課題解決を目的として、 **放っておいたら消滅してしまうような** 地域の特色・資源を再発見して発信

外からの評価を得ることによって、 地元のやる気向上+求心力アップにつなげる

まずは

- ・富山県内の地域資源(ヒト・モノ・コト) を事前に調査研究
- ・地域のビジョンづくり
- ・実施体制づくり

ソリューション「X」

地域から課題を募集して、その 地域ごとの課題を解決するため の実証実験を公募

実証実験を通して

- ・課題の解決
- ・地域のチーム作り
- ・ソリューションXをテーマ としたOJTによる人材育成

03

ボトムアップ型まちづくり (個別実情の優先)

02

なりわい創造プラットホームづくり (支援・連携の拡大)

01の実行チームの一員 としてソリューションX をテーマとしたOJTによ る人材育成・なりわい づくりをサポート

03のサポーターとして、個別のモデル地域への

- ・アドバイス
- ・ファシリテーション

等

田園部会として目指す進め方

現在

田園のあり方

実施する取組み

10年後

世界から認められる田園

コミュニティ形成

地域課題への取組み

放っておいたら消滅してしまうような 地域の特色・資源をピックアップ

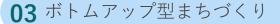
→磨き上げるための

- ・地域のビジョンづくり
- ・実施体制づくり

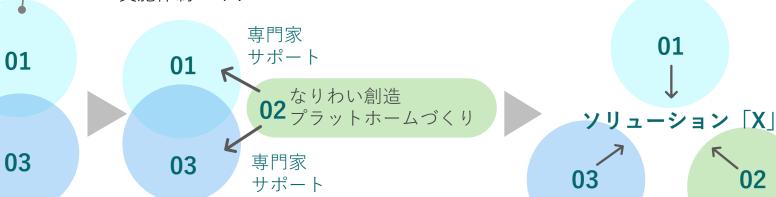
01田園の魅力発信&求心力づくり

富山県内の地域資源を事前調査研究

- ・フィールド調査
- ・関係者への聞き込みと合意形成
- ・協力者への打診
- ・イベント性のあるプチ実証実験



モデル地域づくり (次のスライド)



02